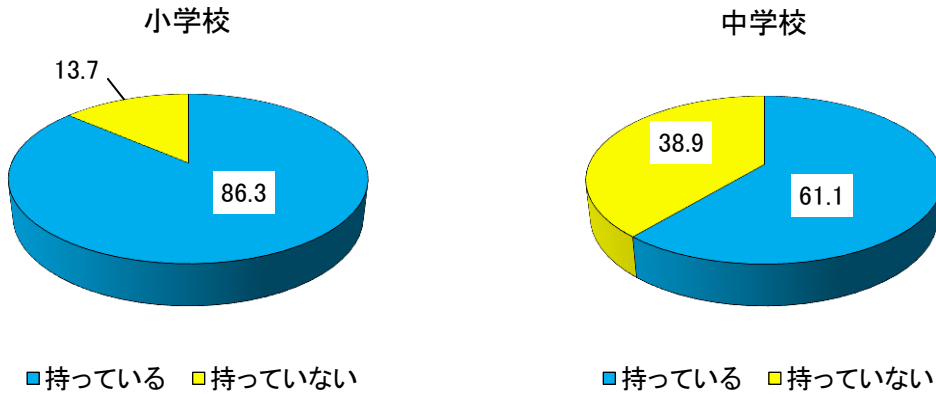
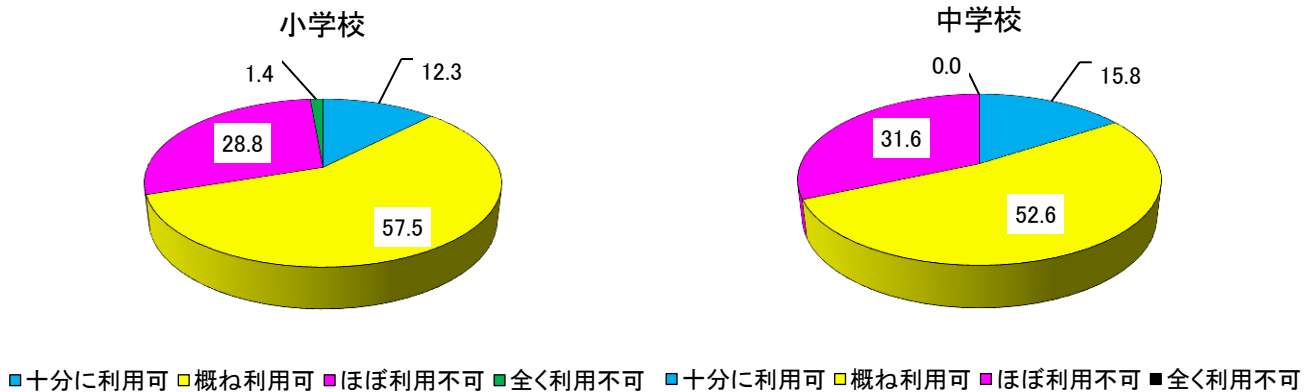


I 特別支援教育に関わる教員の ICT 活用の能力

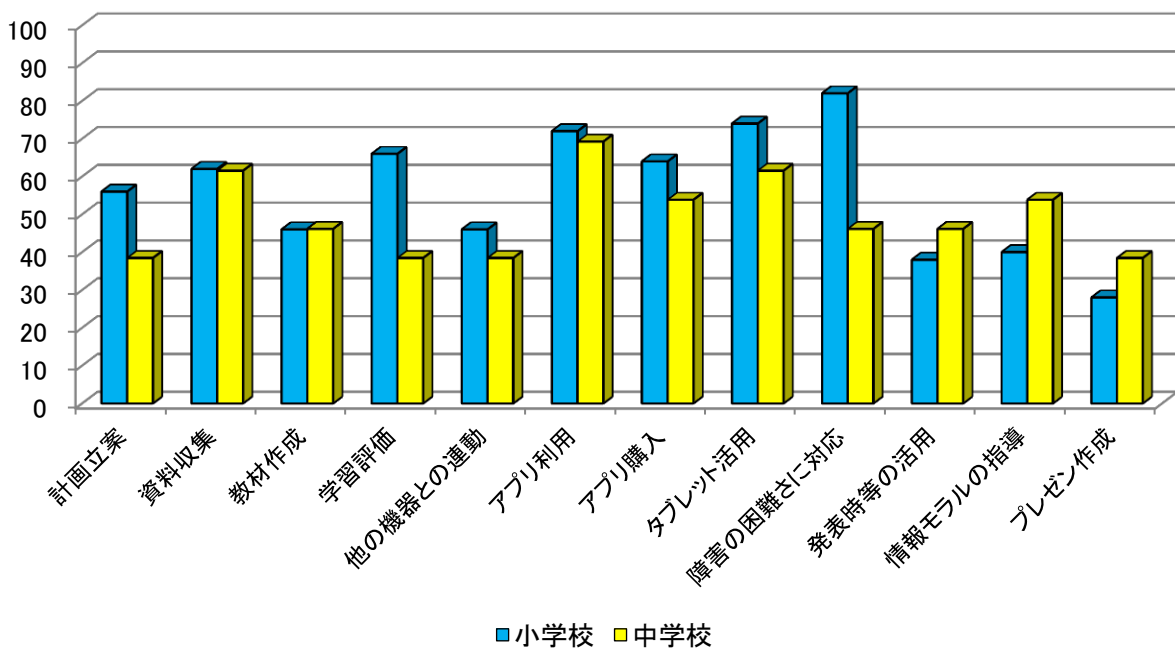
タブレット端末等の所有状況



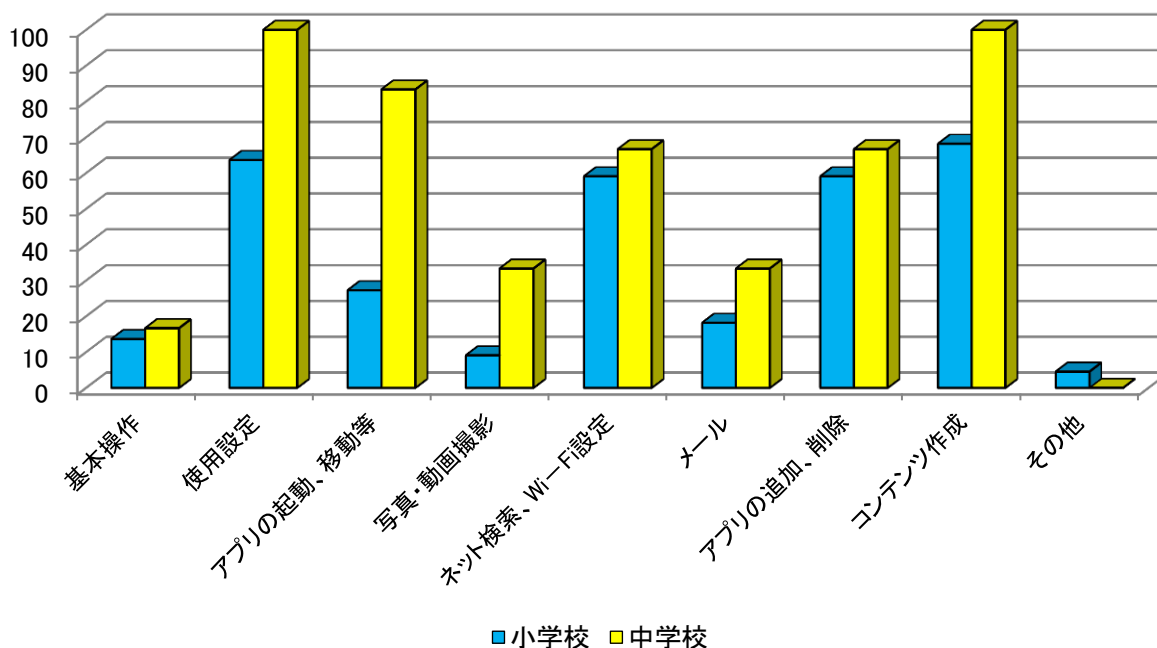
タブレット端末等を活用する能力



タブレット端末等を活用できる(活用したい)内容
(タブレット端末等を利用できると回答した教員)



タブレット端末等を活用する際に感じる難しさ
(タブレット端末等を利用できないと回答した教員)



【 概 要 】

- ◆タブレット端末等を所有している教員は、小学校が約9割、中学校が約6割で、小学校の方が所有している教員の割合が高かった。
- ◆タブレット端末等を活用する能力については、小学校と中学校で大きな違いはなく、小、中学校ともに、約7割の教員が、タブレット端末等を「説明書を見なくても十分に利用できる」または「説明書や解説書を見れば、概ね利用できる」と答えた。
- ◆タブレット端末等を十分にまたは概ね利用できると答えた教員について、「タブレット端末を利用してできると考えていること」または、「タブレット端末を利用してみたいと考えていること」を尋ねると、小学校では約8割の教員(中学校約4割)が「児童の個別課題に応じて学習内容を設定して学習課題などに取り組みさせる」と答えこの割合が一番高く、中学校では約7割の教員(小学校約7割)が「説明をわかりやすくしたり理解を深めやすくしたりするためにタブレットの青売りを利用して指導する」と答え、この割合が一番高かった。その他、小学校と中学校の教員で回答率が比較的大きく異なったのは、「授業のどの場面でどのようにタブレット端末を利用すると効果的か計画を立てる」(小学校約6割、中学校約3割)、「写真や動画を撮り、児童生徒の学習成果をタブレットで集約して学習評価に生かす」(小学校約7割、中学校約4割)だった。
- ◆タブレット端末等をあまりまたは全く利用できないと答えた教員について、「ICTを活用するに当たってどのようなことに困難さを感じるか」尋ねたところ小、中学校ともに、「機器が使用できるまでの設定」(小学校約6割、中学校10割)「アプリなどを使った学習コンテンツの作成」(小学校約6割、中学校10割)が多かった。また、中学校では、「アプリの起動、移動、削除、アプリやフォルダの名前の設定」と回答した教員が約8割(小学校約2割)と多かった。